



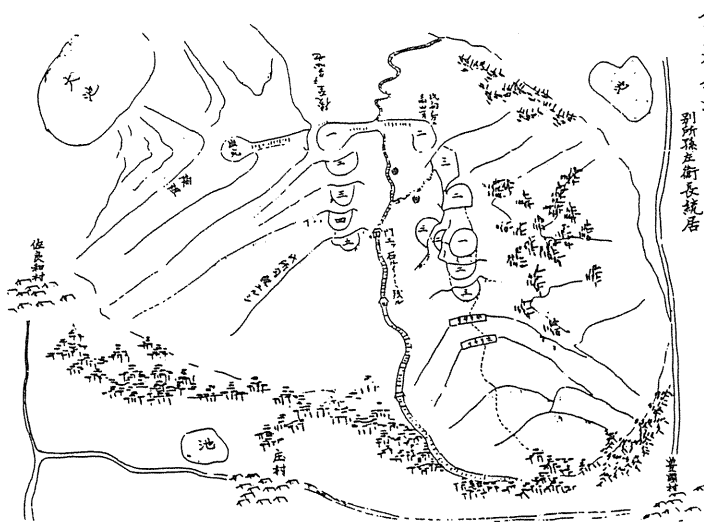
『飾東町』をたずねて

飾東町は、市川の東、天川の中・上流部を占め、昭和29年旧飾磨郡谷内村と谷外村が合併して飾磨郡飾東村となり、昭和33年姫路市に合併して姫路市飾東町になった。谷内・谷外の名は、昔、天川谷を総称して「谷保内」という^{たにほうない}ていたが、後、「谷外内」の字を用いるようになり、明治以後は山崎以北を「谷内」といい、塩崎以南を「谷外」というようになったという。

江戸時代には、佐良和は大野郷に、庄の西半分は星田庄に、庄の東半分、豊国、塩崎、北山、山崎、八重畑、小原、小原新は谷外内に属し、大釜、北野(新)、清住(新)、志吹、唐端新は印南郡志方庄に属していた。これらすべて姫路藩領であった。

ずっと以前の「星田庄」は庄、豊国、塩崎、山崎、八重畑、北山、小原、小原新にまでおよんでいたと記され(播磨鑑)、もとは、「法師田」からきた名で法師に賜った田であろうという説がある。『播磨国風土記』小川里の条に、「筑紫国の豊国の神がここにおられたので豊国村という」と記され範囲はわからないが、「豊国」は奈良時代に見られる古い地名である。

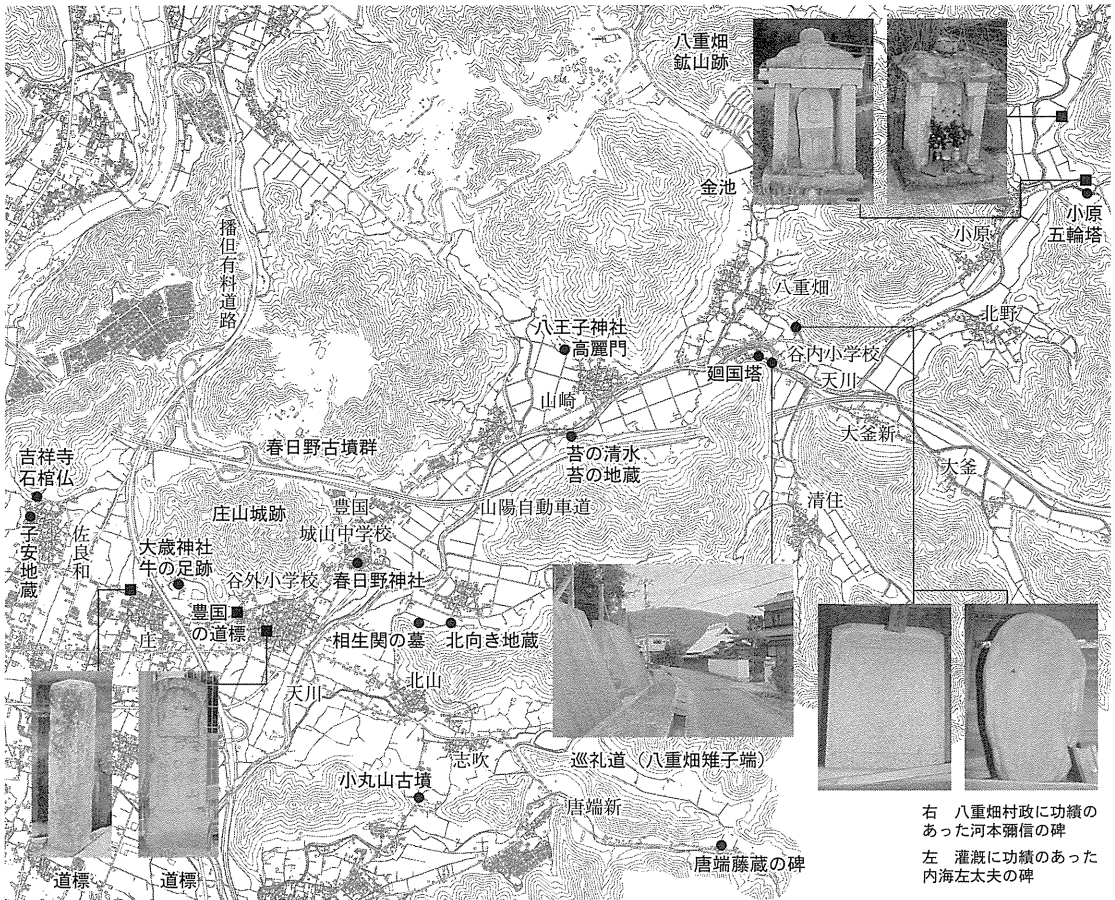
飾東地域は、古墳が多くあって早くから開けた地であり、また、丹波道、但馬道、有馬道が通る交通の要地であり、その重要地に庄山城が築かれたと考えられる。丹波道は法華山一乗寺と書山円教寺を結ぶ巡礼道としての役割も果たした。



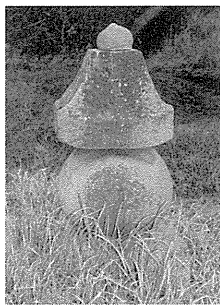
▲庄山城のあった城山
(右下は城山中学校)

◀飾東郡庄古城図(文化9年のもの)

庄山城跡 庄から豊国にいたる集落の北に位置する城山(194m)にある。中世の山城を代表するもの。この位置は、丹波道、但馬道が山麓で交差する交通の要地にあたる。赤松貞範が貞和5年(1349)に築き、在城25年、69歳で没したといわれる。享禄2年(1529)御着城主小寺政隆は御着城主と庄山城を兼領するが、翌年7月浦上村宗に攻められ討ち死にした。元龜年中(1570~1573)別所孫右衛門重棟がこの城を修復し、加東郡よりこの地に移った。重棟は秀吉に味方したので、後に但馬の八木城1万5000石の城主となった。庄山城は天正年中に落城したという記述もあるが、詳しくはわからない。現在わずだが、石垣、土塁、堀切り、井戸などの遺構が残っている。



右 八重畑村政に功績のあった河本彌信の碑
左 灌漑に功績のあった内海左太夫の碑



小原の五輪塔

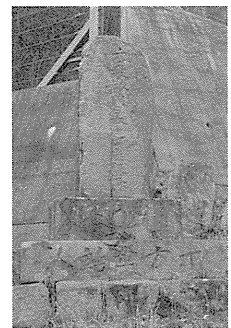
小原の五輪塔 小原バス停から国道372号線を600mほど北東へ行くと、右に折れる小道がある。この角に2基の道標があり、「右ほっけ、左たんば」と刻まれて、ここ372号線が丹波道で、この小道が巡礼道であったことを示している。小道の先に樋枝池があり、この堰堤の下に姫が塚とよばれる五輪塔がある。

「志趣者為自他法界平等利益也」と建武4年(1337)の銘文がある。この塔には、知らずに盗賊の父に襲われ殺された娘を哀れんで築いた塚だとか敵に追われ自害した赤松の姫を葬ったところなどいろいろの伝説がある。

八重畑の廻国塔 谷内小学校の西の山麓に建てられている。

正面に「大乘妙典日本廻国供養塔 六十六部天下和順 日月清明」とあり、嘉永元年(1848)願主当村伊左エ門の銘文がある。廻国塔は大乘妙典という法華経を全国66か国の霊場に納める目的で国々を廻ったことが刻んであり、市内では、山脇、白浜、西土井など数ヶ所で見られる。

八重畑鉦山跡 天川の支流、八重畑川に沿って北上する金池がある。この池の東西山麓一帯が、八重畑鉦山(長谷山鉦山、有乳山鉦山)の跡である。『播磨古所跡略説』に、「銀山長谷山 採掘開始の時期不明。終わりは本多美濃守御代。銀山繁盛の時にできたと伝える長谷寺地跡がある。」とある。その後、大正期に採掘を再開したが、長く続かず中止している。



八重畑の廻国塔



八重畑鉦山跡

苔の清水と地蔵（山崎） 国道372号線山崎バス停から天川を渡り、自転車専用道を南下すると、山麓にお堂があり右脇に清水が湧いている。この清水は、苔の清水と呼ばれ、播磨十水の一つといわれた。

また、室内には3体（もとは2体）の石仏があり、苔の地蔵と呼ばれてきた。中央の地蔵は、乳が出ないとか多過ぎて困る婦人にご利益があるという。右の地蔵は首がなく、昔西国の武士が腹痛で地蔵堂で休んでいたが、地蔵がせせら笑っているように見えて袈裟斬りにしたという伝説がある。



苔の地蔵

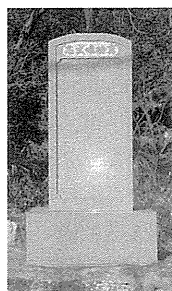


苔の清水

八王子神社の門（山崎） 山崎集落北の山麓にあり、古くは八王子若王子権現と呼ばれ、八王子神若王子神などを祭神とする。この神社の門は、高麗門と呼ばれる構造形式のもので、明治初年に姫路城の城門を移した門といわれる。



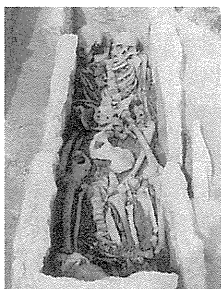
八王子神社の高麗門



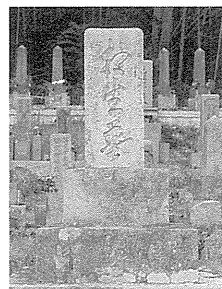
唐端藤蔵の碑

唐端藤蔵の碑（唐端新） 唐端新から荒神谷に行く途中の道の北側にある。唐端新村は、はじめわずかの畑だけで難渋していたが、天保7年（1836）に唐端藤蔵が4年を費やして池を造り耕地を開いたといわれその功を讃えて建てた碑である。碑文には藤蔵の生い立ちや開墾の苦労などが詳細に記されている。石碑は平成7年に再建された。

小丸山古墳（志吹） 志吹集落の南にあり、組合式石棺の中に姫路地方では初めてといわれる完全な人骨3体と金製の耳飾り、馬具、須恵器などが出土した。この周辺には中山古墳群、などがある。



小丸山古墳



相生関の墓

相生関の墓（塩崎） 塩崎集落の南、迎山の麓の墓地にある。本名を渡辺甚吉といい、春日野の出身の力士。17歳の時すでに播磨・備前・美作に敵なしといわれ、明治7年（1874）23歳で幕下となる。9年に入幕して相生関と名のる。明治34年（1901）50歳で没する。

北向きの地蔵さん（塩崎） 塩崎集落の南、迎山の麓公園の南にある地蔵立像。宝永4年（1707）の銘文がある。北を向いているのは、村を見守ってくれるようにとの願いだろうか。



北向きの地蔵さん

春日野神社（春日野） 当社の社伝によれば、長暦元年（1037）に春日四所大明神をこの地に祭ったと伝える。あま天のこごやねのみねのことふつのみことたけみかつちのみことひめおおかみ天兒屋根命・経津主命・武御雷命・姫大神を祭る。谷外荘（谷外内か？）の八重畑・山崎・塩崎・豊国・上原田の氏神であったが、のちに八重畑、山崎はその土産神を分けて別に祭るようになった。

慶応2年の作と思われる絵馬は、苗取りから脱穀にいたる一年間の農業の仕事を収めたもので幕末の農耕技術の様子がよくわかる。

『播磨国風土記』小川里の条にある「射目前」は、塩崎の小字射目前であると、『三代実録』貞観10年の条にある「播磨国正六位上射目崎授従五位下」は、この地に祭られたと推定されている。



春日野神社

春日野古墳群 城山中学校の北の山麓などに12の古墳が散在していて、金環、鉄鏃、須恵器、などが出土したといわれる。規模は小さいが、1号墳などは特色ある石室構造をもっている。平成3年10月山陽自動車道の建設にあたり2号墳の発掘調査をしたところ、播磨では最大級の円墳であることが認識され、金メッキを施した銅製の馬具の一部などが発見された。

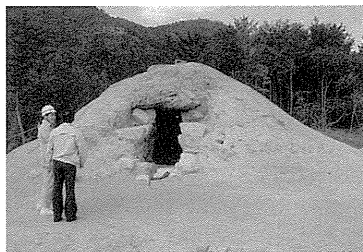
豊国道標 谷外小学校の前の道は巡礼道とよばれた。小学校から100mあまり西の三叉路にあるこの道標は、西国三十三所巡礼を成就した人たちが延宝5年(1677)に建てた。道標としては姫路市内で最古のもので、全国的にも古い遺物である。姫路市指定文化財。また、この道標のすぐ左に文久3年(1863)に建てられた道標がある。

巡礼道 法華山一乗寺から書写山円教寺に通じる巡礼道で、大釜(または小原)から八重畑雉子端を通り、天川の左岸側(丹波道)を山崎へ、山崎の橋を渡って天川の右岸側(丹波道=ほぼ国道372号線)を豊国へ、谷外小学校の前を通り、庄の中、佐良和の南、石積山の麓を通り、市川松ヶ瀬を渡って保城に通じる道をいう。庄に萬屋・大黒屋、八重畑(雉子端)に合羽屋・紅屋などの巡礼宿があった。ちなみに、文化11年(1814)にここを通った巡礼の日記によると、松ヶ瀬の渡し賃が5文、春日野宿とうふや又三郎での木賃が50文と記している。

牛の足跡(庄) 大歳神社の社の東側に高さ1m余りの凝灰岩があり、その岩の中ほどに牛の足跡らしきくぼみがある。御国野町の牛堂山国分寺の「縁起由緒」などによると、天平13年(741)聖武天皇の命で諸国に国分寺が建立されることになり、播磨国では今の国分寺に建立されることとなったが、近くの火の山(国分寺の南山か)から一頭の霊牛現われ、国分寺造営の膨大な材木をすべて運んだという伝説がある。この足跡はその霊牛のものという。

貞治子安地藏(佐良和) 佐良和集落の地藏堂内に安置されている。石棺の一部とみられる板石に地藏を浅く彫っている。貞治2年(1363)のもので、「子安地藏」として信仰されている。

瑞光山吉祥寺の喚吊鐘 もとは国分寺北西の守護神として毘沙門天を安置した小さなお堂であったが、元和年中(1615~1624)に安珪によって臨濟宗のお堂がつくられ、のち、黄檗宗に改められた。この寺の喚吊鐘は、姫路市内で確認されている模造朝鮮吊鐘3口のの一つで、鐘身に仏坐像、飛天、楽器などが陽鑄されている。延宝5年(1677)の銘がある。
吉祥寺の石棺仏 境内左のお堂の中に2基の石棺仏がある。向かって右側は組合わせ式石棺の側石に阿弥陀坐像が彫られ、左側は宝珠と錫杖を持った地藏立像が彫られている。両像とも凝灰岩製。様式からみて、南北朝時代(14世紀)の作と推定。また、堂前の鰐口は安永6年(1777)の銘がある。



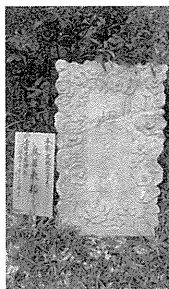
春日野(飾東)2号墳
(調査後解体)



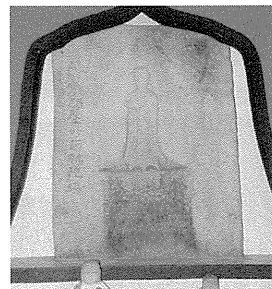
豊国の道標



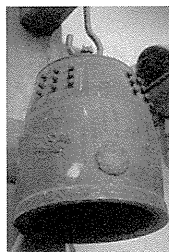
巡礼道(庄)



牛の足跡



貞治子安地藏



吉祥寺の喚吊鐘



吉祥寺の石棺仏